

大洲 今昔

大洲は古名を「大津」といった。鎌倉時代末期に宇都宮氏が領主となり、大津に城館を構え、戦国時代までの約230年にわたってこの地を支配した。その後の藤堂氏・脇坂氏の時代に近世城郭として整備されたのである。

城物 話



元禄5年(1692)の大洲城絵図(大洲市立博物館所蔵)

鎌倉時代末期から戦国時代までの約230年にわたって続いた宇都宮氏の治世は、宇都宮豊綱の代に家臣・大野直之に領主の地位を奪われて終わる。豊臣政権時代に入ると戸田勝隆、藤堂高虎、池田高祐と、大津城主は短期間の内にめまぐるしく変わった。

関ヶ原合戦後、その功績によって、藤堂高虎が南予を含む伊予半国を与えられ、慶長13年(1608)に高虎が伊勢・伊賀へ移ると、翌年には大津5万3千石の城主として脇坂安治が入る。藤堂・脇坂の両氏の時代に、大津城は近世城郭として整備された。

大坂の陣を経て、元和3年(1617)に脇坂氏は信濃飯田へ転封となり、代わって米子から6万石で加藤貞泰が入封する。6年後、貞泰が急逝すると、嫡男の泰興がわずか13歳で家督を相続し、寛永16年(1639)には弟・直泰に内分の形で1万石を分けた。これに

築城主は藤堂高虎

伊予の小京都に名城あり

より新谷藩が誕生し、明治維新まで続く。地名が「大津」から「大洲」に改められたのは、泰興時代のことである。

大洲藩は非常に学問を好む土地として知られており、特に泰興は藩政の強化に尽力し、多くの公役を務めた賢侯として後世に名を残している。64歳の時に孫の加藤泰恒に家督を譲り、隠居後は剃髪して月窓と名を変えた。その3年後に亡くなった月窓公は、現在、肱川を見下ろす古刹・如法寺に眠っている。



大洲藩初代藩主加藤貞泰公肖像画

Taste history at Ozu Castle

Long ago, the city's name of "Ozu" was written with different kanji characters than are used today. After becoming the feudal lords of the area at the end of the Kamakura period, the Utsunomiya family built a castle at Ozu and ruled for about 230 years, until the Sengoku period. Later, more modern castles were built while Ozu was ruled by the Todo and Wakisaka families.